

 WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2009.8

No. 304

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



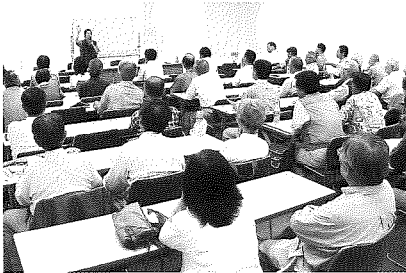
平成21年度(第25回)支部総会を開催

平成21年6月21日(日)午後2時から、さいたま市立浦和コミュニティセンターで、支部総会を開催しました。

●記念講演

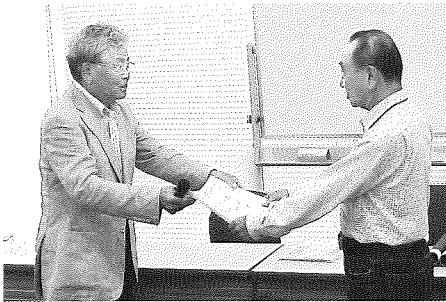


田邊八州雄の司会で始まり、記念講演は、財団理事の安西英明氏(写真左)の「鳥に学ぶ、男と女」。鳥が配偶者を選ぶ仕組みなど、予定時間をオーバーしても、まだ聞き足りない講演でした。



●表彰式など

藤掛保司支部長の開会の挨拶で総会が始まり、冒頭、昨年の県内鳥見ランキング探鳥会参加回数で第1位となった大坂幸男氏に表彰状と副賞が手渡されました。



観察鳥種数の部第1位の鈴木敬氏は欠席のため、後日表彰状と副賞が渡されます。

その後浅見徹が議長に、長野誠治が書記、大坂幸男・橋口長和が議事録署名人に選出されて、議事に入りました。

●20年度事業報告と21年度事業計画(案)

事務局局長海老原美夫が平成20年度に実施した事業について説明し、各部長などがそれ

ぞれ補足説明をしました。主な内容は次の通りです。

〔総務・事務局関係〕

残念ながら20年度も会員数が減少した。対策のひとつとして、埼玉県支部入会用の振替用紙を20年度中に計画し21年度に作成する、など。

〔保護活動関係〕

鳥獣保護区新設増設に対する意見書提出、カワウ問題協議会・見沼たんぼネットワーク・全国密猟問題シンポジウムなどへの参加、など。

〔普及活動関係〕

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、計画115回、雨天中止5回、実施110回=1ヵ月平均9.2回、合計参加者数4,604人=1回平均41.9人に及んだ。その他、学校関係など10件の普及活動。

〔調査研究関係〕

研究部(部長:小荷田行男)は、タカの渡り、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類、県内野鳥分布調査を継続。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、1種を初確認として記録し、県内野鳥リスト2009を作成。

〔編集活動関係〕

編集部(部長:山部直喜)は、『しらこぼと』を年12回、合計24,000部発行。

〔事業活動関係〕

事業部(部長:福井恒人)は収益目的ではない会員の利便のための事業活動を継続。

詳しくは支部HPをご覧ください。

引き続き、基本的な自然保護の知識と思想の普及に重点をおく21年度事業計画(案)が説明され、一括承認されました。

●20年度決算と21年度予算(案)

20年度決算について、仮払金、各項目の予算額との対比などについて海老原が説明、石川敏男・楠見邦博両監事が監査結果を報告しました。21年度予算案の什器備品費などについても説明があり、一括承認されました。

●21 年度役員

前年度役員のうち喜多峻次と工藤洋三が仕事などの都合で退任しました。それ以外の 39 名を再任、入山博、須崎聡、千島康幸、吉原俊雄を新任として推薦する案が承認されました。新役員の大抜擢の後、総会を一時中断して 21 年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、前年度と同じ支部長・副支部長・監事を選出することが議決されました。

〔支部長〕 藤掛保司(川越市)

〔副支部長〕 海老原美夫(さいたま市)

〔幹事〕 青木正俊(さいたま市) 浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市) 井上幹男(長瀨町) 入山博(春日部市) 内田孝男(古河市) 榎本秀和(鴻巣市) 大坂幸男(上尾市) 大澤祐(深谷市) 北川慎一(本庄市) 倉林宗太郎(さいたま市) 小池一男(寄居町) 後藤康夫(嵐山町) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(大和市) 佐久間博文(川越市) 杉本秀樹(習志野市) 須崎聡(川口市) 田中幸男(蓮田市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 千島康幸(小川町) 手塚正義(川口市) 内藤義雄(鴻巣市) 中里裕一(騎西町) 中島康夫(蓮田市) 中村豊己(東松山市) 長野誠治(さいたま市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡町) 福井恒人(さいたま市) 持丸順彰(志木市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市) 吉原俊雄(北本市)

〔監事〕 石川敏男(春日部市) 楠見邦博(さいたま市)

日本野鳥の会埼玉県支部平成 20 年度決算・21 年度予算

収入の部

	項 目	20年度決算	21年度予算
一般会計	期首繰越金	3,802,466	3,677,301
	会費	3,307,650	3,000,000
	寄付金	8,564	10,000
	探鳥会参加費	300,435	300,000
	雑収入	57,097	10,000
	仮払金清算	89,128	0
	補助金	200,000	200,000
	一般会計合計	7,765,340	7,197,301
事業部会計	期首繰越金	2,011,559	2,104,406
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	681,869	700,000
	事業部雑収入	7,874	5,000
	事業部会計合計	7,701,302	7,809,406
総合計	15,466,642	15,006,707	

支出の部

	項 目	20年度決算	21年度予算
一般会計	什器備品費	4,640	700,000
	消耗品費	8,104	20,000
	支部報印刷費	1,247,400	1,300,000
	支部報送送料	817,646	900,000
	印刷コピー代	212,004	300,000
	通信費	130,693	150,000
	雑費	140,183	140,000
	家賃	1,065,000	1,100,000
	水道光熱費	57,049	60,000
	総務部費用	130,760	140,000
	普及部費用	135,173	220,000
	編集部費用	29,850	50,000
	研究部費用	4,560	10,000
	予備費	0	300,000
	仮払金残	104,977	0
期末繰越金	3,677,301	1,807,301	
一般会計合計	7,765,340	7,197,301	
事業部会計	事業部仕入れ金	594,216	600,000
	雑費	2,680	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	期末繰越金	2,104,406	2,204,406
	事業部会計合計	7,701,302	7,809,406
総合計	15,466,642	15,006,707	

新役員



入山 博



須崎 聡



千島康幸



吉原俊雄

2009年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2009年4月29日 9:30～11:30
 場所：さいたま市 大久保農耕地
 天候：快晴

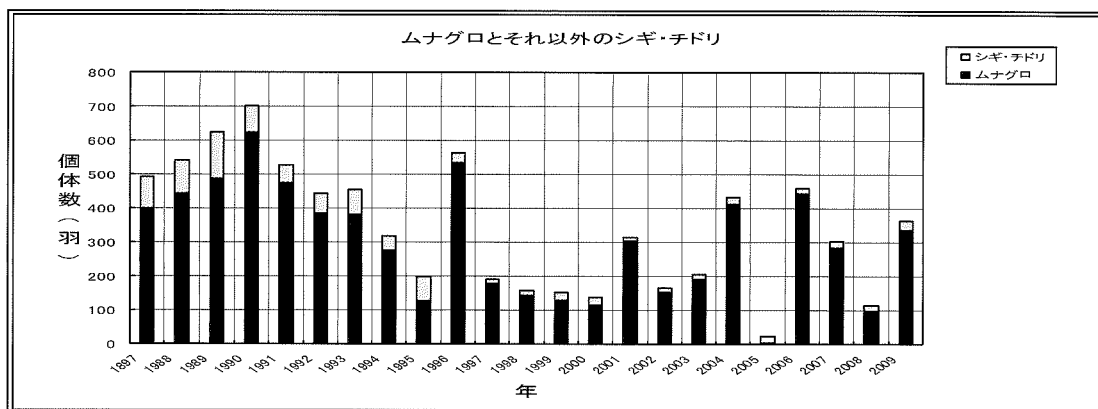
日本付近は高気圧に覆われ、快晴となりました。また、連休中にもかかわらず、支部会員22名の協力が得られました。ありがとうございました。

観察された種数、個体数は5種363羽で、昨年の春と比較すると種数は同じですが、個体数は249羽多くなりました。これは、昨年と比べるとムナグロが239羽多くなったことが大きな原因です。

また、今回の調査でもA s区でほとんどのムナグロ(320羽)が確認されました。はっきりした原因は分かりませんが、以前は普通にムナグロが観察されていたA区は、2005年からほとんど観察されなくなりました。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数を、表は春のカウント結果をまとめたものです。

(石井 智)



春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	
天候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	
1 タマシギ				2																				
2 コチドリ		5	1	2	1	1	4			7	1		1	2	5	2	6	9	4	4	2	6	3	7
3 シロチドリ				1																				
4 ムナグロ	400	444	488	624	474	386	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	190	413	3	444	283	98	337	
5 ケリ																1								
6 キョウジョシギ	3	7	2	2					2	1			2	4		2	1		1			3		
7 トウネン				1																				
8 ウズラシギ	2		2		1	1																		
9 ハマシギ	2		10	30			24	1		9														
10 アオアシシギ			4		2	1	7	3						7							2	1		
11 タカブシギ	50	52	69	16	4	6	6	13	25	5				1	5	2	1	1	6					4
12 キアシシギ	2			3									2	1						2				3
13 イソシギ	2		1									1						1						
14 オグロシギ				1																				
15 チュウシャクシギ	12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	3	5	6	2	13
16 コシャクシギ				1																				
17 ツシギ	14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2		13	3	8	8	2	
18 オオジシギ																1	1							
19 ジシギ属	1	1			3	2	1	2				1												
20 アカエビレアシギ			1																					
シギ類						5																		
合計	493	542	624	701	526	443	454	319	199	564	191	158	153	139	315	166	206	432	23	460	304	114	363	

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

●サンカノゴイ

英名 Bittern (or Eurasian Bittern)

学名 *Botaurus stellaris*

分類 コウノトリ目サギ科サンカノゴイ属

2009年5月1日、北本市北本自然観察公園で、大坂幸男(支部幹事)がサンカノゴイ1羽を写真撮影しました。(下写真)



ほかにも複数の観察者が写真撮影しています。当委員会の榎本秀和委員が情報を整理したところでは、4月24日初認、5月2日終認

のようです。

埼玉県教育委員会が1978年に発行した『埼玉県動物誌』によれば、本種は1917年に入間郡南畑村東大久保(現在富士見市)の荒川べりで捕獲された例と、1969年～1977年の間に、荒川中流の植松橋付近(現在深谷市)で、埼玉野鳥の会の会員が観察した例が記載されています。また、日付は不明ですが北川辺町で写真撮影されたとの情報と、2008年2月、さいたま市大宮区で観察されたとの情報もあります。後者の例では、写真などの映像は残されていないようです。

本種は県内野鳥リストにすでに掲載されていますが、今回は写真撮影を伴う埼玉県ではまれな確認例です。

環境省レッドデータブック絶滅危惧I B類種(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)、「日露渡り鳥条約」「日中渡り鳥条約」指定種になっています。

母スズメを待ちながら

間正理恵(狭山市)

小さな竹ザルに麻の実とエゴマを少し入れてベランダに出している。5月下旬の朝7時半。やけに大きなスズメの声。ザルの中にスズメが2羽すっぽり入り込んで餌をついばんでいる。

つい前日、餌を食べているところにもう1羽が近づいたとたん、先のスズメに両脚で掴みかかれ、追い払われるのを見たばかり。この仲の良さはどうのことだろう。見れば1羽は色が淡く、体も一回り小さく、声ばかりが大きい。巣立ヒナに違いない。大人のスズメ(ひとまずお母さんと呼ぶ)は、餌の皮を剥いてはヒナの口に入れてやっている。ヒナの顔にこぼれた餌を、嘴でそっと取ってやるなど、人間のお母さんが離乳食を食べさせているところそっくり。ヒナは安心して甘えている。ひとしきり食べさせ、自分も食べるとお母さんは後も見ないで飛び立

つ。ヒナは慌てて後を追うかと思いきや、座りなおして自分で餌を拾って食べ始めたのではない。けれども、いつの間にやらあたりに大人のスズメの姿はなく、声もまったく聞こえなくなっている。さすがのヒナも、食べるのをやめ、餌入れの縁に身をすくめ、時々おどおどとあたりを見回す。

ガラス戸のこちら側で息を殺すこと5分。すぐ近くからまた大人たちの声が聞こえ始めた。ヒナはその声に向かって一目散・・・ではなく、安心したのかまた餌を食べ始めた。かなりの食い意地だ。そこにお母さん(今度はお父さんだったのかも知れない。そういうことまで分かたらどんなにおもしろいだろう)がさっと舞い降りて来た。ヒナはお母さんの背中を乗り越えて前に回ると、翼を震わせ大声で甘える。お母さんは何事もなかったように、餌を拾ってはその口に入れ始めた。私はようやく安心して、そっとカーテンを閉め、出勤したのです。



野鳥情報

蓮田市蓮田根ヶ谷公園 ◇3月31日午前6時、ウソ14羽、スズメの群れに混じり「フィィ」と鳴く声があった。ケヤキと桜の木において、芽を食べていた（本多己秀）。

蓮田市黒浜 ◇4月20日、元荒川沿いの桜の木でコムドリ4羽。4月28日、水田でムナグロ5羽。東埼玉病院内でオオルリ♂1羽、エナガ2羽、アカハラ、クロジの声。4月30日、水田でアマサギ3羽、ダイサギ2羽、チュウサギ2羽。東埼玉病院内でクロジ1羽確認（鈴木紀雄）。◇4月29日、ムナグロ探して黒浜・笹山の田んぼを一巡。ムナグロは確認できなかったが、アマサギとチュウシャクシギが黒浜の田んぼで観察された。この時期、この地域では久しぶりである。アマサギはハシボソガラスに追われ近くに来てくれた。チュウシャクシギは少し遠めだったものが、スコープを向けると更に遠ざかっていった。そっと見せていただいていたつもりなのに…。上沼周辺のアシ原で今季はじめてオオヨシキリの声を聴く（田中幸男）。

蓮田市西城沼公園 ◇4月24日、竹やぶからカケスの声が出た。4月28日、ナラの林にカケス1羽。ケヤキの梢をキビタキが鳴きながら移動。この公園でキビタキは初認。ヒヨドリ10羽の群れが3群、北に渡る。ケヤキの木で営巣したハシボソガラスが近くを飛ぶガラスにスクランブル。空中戦だ。電柱のガラスも雛が孵ったようだ（長嶋宏之）。

蓮田市高虫 ◇4月27日、コチドリ1羽（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月19日、カケス1羽、まだ残っていた。4月24日、元荒川沿いのアシ原で夏羽になりかけたノビタキ♂1羽、クロジの声、チュウサギ1羽、ハシビロガモ♂1羽♀1羽。4月27日、サンショウクイが鳴きながら上空を北へ。キビタキは声のみ。オナガ、シロハラ、シメなど。4月28日、センダイムシクイ発見、

エナガ5羽、アカハラの声。4月30日、ハイタカがムクドリらしきをつかんで飛翔。コムドリ3羽、クロジ1羽を確認（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月27日、ムナグロ16羽。4月28日、ムナグロ20羽+。4月30日、ムナグロ10羽。5月7日、ムナグロ40羽、キアシシギ1羽（鈴木紀雄）。◇4月29日、ムナグロ28羽（本多己秀）。◇4月29日、掛の田んぼのムナグロは例年黒浜より早く飛来するので、黒浜での観察後に立寄る。期待通りムナグロ30羽士の群れに今季初めて会うことができた。ムナグロの隣の田んぼでは、婚姻色に変色したコサギと今季はじめてのチュウサギが採餌していた（田中幸男）。

さいたま市岩槻区长宮 ◇5月1日、ムナグロ40羽+（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区平林寺 ◇5月7日、ムナグロ25羽、コチドリ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市南区彩湖右岸 ◇4月20日、頭部が黒くなったユリカモメ3羽。コアジサシ7羽、久しぶりにスマートに飛びながら、時々直角降下する。セッカ、ヒバリのさえずり、けたたましいキジの声を聞いたのも久しぶり（陶山和良）。



さいたま市桜区大久保農耕地通称B区 ◇4月26日、秋ヶ瀬探鳥会が終わった午後、ハイロヒレアシシギ中間羽2羽(写真上)、セイタカシギ1羽、タカブシギ2羽(海老原美夫)。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇4月27日、ムナグロ25羽（鈴木紀雄）。

坂戸市西坂戸 ◇4月22日午後1時30分頃、

「ピュー、ピュー」の鳴き声で部屋の窓を開けると、自宅裏の公園にアオゲラ♂1羽。地面に降りて、ミミズでも食べるのでしょうか？ツグミのように地面をつついて、採餌行動を10分ほどしていた。黄色いタンポポや赤紫のカラスノエンドウの花咲く舞台上、頭頂部の赤いのが印象的でした。地面に降りているキツツキなんて初めて見ました（増尾隆・節子）。

坂戸市高麗川 ◇4月29日午前6時30分頃、高麗川中里堰でイカルチドリを見ていると、水の流れる堰上にアカアシシギ1羽。何か餌を探すような行動をしていた。当地初観察記録です（坂口稔）。

北本自然観察公園 ◇4月24日午後9時頃、イカル6～8羽、背の高いユリノキ並木の樹冠近くに姿を確認。その後、「キヨコキキヨコキキ」と鳴きました（吉原早苗・俊雄）。◇5月1日、サンカノゴイ1羽。午後6時頃から30分ほど、首を直立させた擬態のポーズや、羽繕いする姿をじっくり観察する。4月24日初認、5月2日終認とのこと。当地では初記録である。前頸部の3本のための縦斑から♂と思われる。本種は♂♀ともに、虹彩は黄色のはずだが、この個体は濃い褐色だった。それって若鳥ということなのだろうか？（榎本秀和）。

川口市西新井宿 ◇4月26日、キビタキ♂1羽。春の渡り鳥がやってきた。両種とも特徴的なさえずりなので分かりやすい。ただ、高いところで鳴くので観察するたびに首が痛くなる（須崎聡）。

深谷市本田 ◇4月26日、鹿島古墳公園でノジコ♂1羽。低木でさえずっては、草むらに降りたり、ホオジロに追い立てられたりしていた（鈴木敬）。

松伏町まつぶし緑の丘公園 ◇4月27日午前10時頃、ウズラ1羽。池沿いの草むらから通路に2回出てきました。図鑑の説明通り動きが早く、飛び立ち、降った場所にいない。すぐに移動する。証拠写真撮れず残念。野鳥の会に入会11年目で出会え、驚きです。他に今年初めてオオヨシキリの声・姿を確認できました（大塚操）。

狭山市稲荷山公園 ◇4月27日、キレンジャクのみ群れが7羽ほど、芝生の広場に降りて大発生した小型のコガネムシを盛んにたべていた。しばらく食べると盛りを過ぎた八重桜に移り、こんどは八重桜の花びらを、ヒヨドリと一緒に食べていた。ずいぶんゆっくりと移動しているグループだと思えました（久保田忠資）。

日高市日和田山～物見山 ◇4月30日、日和田山昇り口でビンズイ2羽。登山道脇でキビタキ、エゾムシクイ、アオゲラ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラがさえずっていた。物見山に向かう道沿いでガビチョウのさえずり多し。物見山の頂上で休憩中、ウスバシロチョウ飛ぶ（藤原寛治）。

上尾市中分 ◇5月1日午前6時～6時20分、大宮ゴルフコースでエゾムシクイ、今季初認。ちょっとした林の中で「ヒツキ」とさえずる。キビタキ、ゴルフ場内4ヶ所でさえずる、今季初認。5月10日、午前6時15分、同所でセンダイムシクイ、今季初認。「チオチオビー」とさえずる。エゾムシクイ。キビタキ、高いクヌギの木の上の方で「ポツピリボンポコリン」と2所でさえずる。近くにはアマドコロの花がベルをいっぱいつけて咲いていた（立岩恒久）。

吉川市旭小学校近くの水田 ◇5月5日、ムナグロ、チュウシャクシギ、キアシシギ（渡辺安弘）。

表紙の写真

ツル目クイナ科シロハラクイナ属シロハラクイナ

「えっ！ 埼玉県でまたシロハラクイナ！」と思われた方、ごめんなさい。2008年、2009年と、さいたま市の例の場所でシロハラクイナは観察されていません。この写真はボルネオでの探鳥中、人懐っこく近付いて来たシロハラクイナです。まさか、さいたま市で生まれ育ったやつではないでしょうか。

徳名貴房(さいたま市)



行事案内



ウチワヤンマ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月2日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から
北里メディカルセンター病院行きバス

8：31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野（安）、
山野、長谷川、吉原

見どころ：正直言ってこの時季鳥は少ない。

昨年は 16 種でしたが、コジュケイ 6 羽の
家族に遭遇しました。夏の強い日射しの
下ですが、自然がいっぱいの石戸宿で、
少年時代に戻ってクモ、トンボ、セミ、
チョウたち、そして野草も満喫しましょ
う。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居
8:49 発に乗車。

担当：中里、後藤、森本、大澤、倉崎、高橋（ふ）、
藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、千島、
鶴飼、岡田、進士

見どころ：立秋が過ぎたとはいえ、夏本番の
暑さを迎えている大麻生です。葉陰にソ
ッと身を潜める鳥たちや、南に渡る途中
のシギやチドリを見つけましょう。暑さ
に負けないあなたは超一級のバードウォ
ッチャーですよ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月15日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前9
時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小管、
赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、
船木

見どころ：夏休みはどちらへ。旅の道すがら、
どんな鳥に出会いましたか。夏は真つ盛
り、しばらく見沼田んぼを歩いた後は、
代用水の木陰で鳥談義をしましょう。セ
ッカやオオヨシキリの鳴く声が、緑の風
に吹かれて聞こえてきます。三室へどう
ぞ。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月23日（日）

集合：午前9時30分、JR 総武線船橋駅改札
口付近。集合後京成バス 9:40 発船橋海浜
公園行きに乗車、終点下車。

交通：JR 武蔵野線南浦和 8:30→西船橋にて
総武線乗り換えで船橋下車。

担当：佐久間、杉本、菱沼（一）、玉井、齋藤、
高橋（優）

見どころ：まだまだ暑さは続きますが、シギやチドリ類は秋の渡りがすでに始まっています。県内ではなかなか見られなくなったシギやチドリ類、アジサシ類などが三番瀬では楽しめます。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月30日（日）

集合：午前9時40分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:35→南浦和8:38→南船橋9:29着。

担当：杉本、手塚、菱沼（一）、長谷部、伊藤（芳）、野村（修）、大塚

見どころ：シギ・チドリ類の秋の渡りが最盛期です。雨だとヒレアシギ類、風が吹くとアジサシやミズナギドリ類もやってきます。どちらにしても損はありません。暑さ対策をしてお越し下さい。

財団本部普及室から発表されたフィールドマナー改定版、その2です。

野鳥写真マナー

野鳥の写真を撮ったり印刷物に掲載したりインターネットで公開したりする場合は、「やさしいきもち」に加え、以下のマナーをお守りください。また、保護、研究、普及教育など、野鳥保護につながる特定の目的を持った撮影の場合でも、十分な注意と配慮が必要です。

- (1) 営巢中（巣作り中含む）の巣（巣穴・巣箱・巣台などを含む。以下同じ）、およびその巣にいるヒナあるいはその巣に入ろうとしている親鳥の撮影は避けましょう。
- (2) 国内への渡来の少ない珍しい種は、主な生息地や渡りのルートから外れて飛来した場合が多く、鳥が弱ってしまっているケースもあります。その鳥が十分に休んで採食もできるように、接近し過ぎや、飛ばせてしまうような撮影は避けましょう。
- (3) 撮影を目的とした餌付け、音声による誘引、ストロボなどの人工照明の使用は避け

ましょう。

- (4) 公園やいろいろな人が利用する公共の場所などでは、撮影のために植物の移植や剪定、土砂や岩石の移動といった環境の改変は控えましょう。
- (5) 通行の邪魔にならないよう撮影してください。特に道で集団になっていたりと、三脚を並べていたりすると、通行の迷惑です。また、駐車は通行や近隣の迷惑にならないよう十分に配慮しましょう。
- (6) 近隣の方々の生活や仕事を覗くような形にならないよう、レンズの向け方にも注意しましょう。
- (7) 印刷物やネットなどに写真を掲載する場合は、以上のことに留意して撮影されたものを使用するようにしましょう。

野鳥観察マナー

野鳥の観察では、「やさしいきもち」に加え、以下のマナーをお守りください。

- (1) 国内への渡来の少ない珍しい種は、主な生息地や渡りのルートから外れて飛来した場合が多く、鳥が弱ってしまっているケースもあります。その鳥が十分に休んで採食もできるように、接近し過ぎや、飛ばせてしまうような観察は避けましょう。
- (2) 国内への渡来の少ない珍しい種の観察情報をネットに発信したりマスコミなどへ提供したりする場合は、その場所へ観察する人が大勢集まりトラブルになることもあるので、細心の注意を払うとともに、地域での事前の相談も行うようにしましょう。
- (3) 通行の邪魔にならないよう観察してください。特に道で集団になっていたりと、通行の迷惑です。また駐車は、通行や近隣の迷惑にならないよう十分に配慮しましょう。
- (4) 近隣の方々の生活や仕事を覗くような形にならないよう、双眼鏡や望遠鏡の向け方にも注意しましょう。

（フィールドマナー改定版は以上です。前月号掲載の「やさしいきもち」と合せてお読みください）



行事報告

1月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

新井浩、池田泰右、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司

1月25日(日) 長瀬町 長瀬

参加：69名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) (番外：ガビチョウ) 風のない好天に恵まれてのスタート。はじめにアトリの群れを発見。今冬は当たり年なのだろうか？ 河原ではカワラヒワの大群。シメはあちらこちらで見られる。カモ達はラフティングボートに驚き下流上流へと飛び立ち迷惑そう。キャンプ場の池ではカイツブリがのんびりと潜水を行う。その姿は既に夏羽で、春を感じる探鳥会だった。(井上幹男)

1月25日(日) 狭山市 入間川

参加：28名 天気：快晴

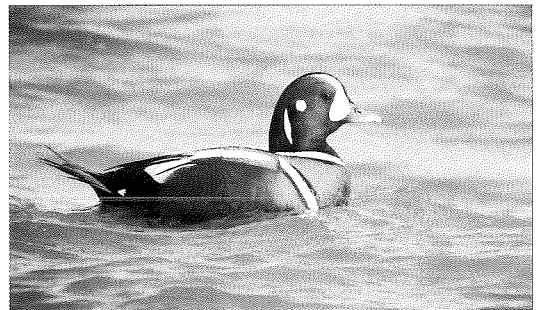
カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ トビ ノスリ バン イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス セッカ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) (番外：ドバト) 久しぶりに観察種が40種を超えた。鳥の出るタイミングがい

い感じで、はじめから終わりまで飽きることなく楽しむことができた。特に最後はビンズイ、シロハラ、初記録のアトリが続けて見られ、皆満足できたと思う。弁当がおいしかった。(長谷部謙二)

1月31日～2月1日(土～日) 茨城県 平潟温泉

参加：24名 天気：1/31雨、2/1晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ウミウ カワウ ヒメウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ シノリガモ ウミアイサ ミサゴ トビ ツミ ノスリ ハヤブサ コジュケイ オオバン タシギ セグロカモメ オオセグロカモメ シロカモメ ウミネコ ワシカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ クロジ マヒワ シメ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) (番外：ドバト) 大宮駅に全員集合し、イザ出発と云う時にバスが接触事故。車両を交換し1時間半遅れで仕切りなおし。全日雨の天気予報のためか焦りも無く茨城県涸沼に向かう。宮ヶ崎干拓地は雨でパス、弁天鼻公園で昼食をとりながら涸沼の水鳥を観察する。大竹海岸は大荒れで狙いのアビ類の姿は無く、北茨城に向かう。大津漁港でカモメ類とハヤブサを見て雨天のなか41種をカウントした。早々に宿の温泉に飛び込み期待の鮎鯨鍋を堪能した。翌朝は海が荒れているが天気は上々で、平潟漁港から勿来の関公園を經由して沼ノ内漁港に向かう。クロガモやアビ類を期待したが、かわりにハヤブサがパフォーマンスを披露してくれた。2日間の海鳥ツアー、充分に楽しめた。(橋口長和)



シノリガモはたっぷり観察できました

2月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 53名 天気: 快晴

カワウ マガモ コガモ オオタカ ノスリ コ
ジュケイ クイナ バン キジバト カワセミ
アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ ア
トリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種)
北風が猛烈に吹きまくり、小鳥たちは出てこない。
期待のベニマシコ、ルリビタキはとうとう確認で
きず。それでも、探鳥会終了間際にジョウビタキ
♂が皆の前でポーズを取ってくれて盛り上がる。
さらに、アオゲラ、アカゲラまで現れ、ようやく
色付いた! ホッ…… (浅見 徹)

2月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 34名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル
ガモ コガモ ハシビロガモ オカヨシガモ ミ
コアイサ ノスリ チュウヒ キジ オオバン
セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハク
セキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オ
オジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 三
脚が倒れるほど北風が強く、芝川のカモたちは風
下へと流されていく。強風の中優雅に舞っていた
のはノスリとチュウヒ。風を遮る用水の斜面林で
コゲラが枝渡りのパフォーマンスを目の前で見て
くれた。 (手塚正義)

2月7日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル
ガモ オオタカ ハイタカ ノスリ コジュケイ
オオバン イカルチドリ キジバト カワセミ
アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ
シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ イカル シ
メ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス

ハシブトガラス (44種) (番外: ドバト ガビチヨ
ウ) 出発直前からルリビタキ♂の成鳥が姿を見せ
る。さらにトラツグミ、カラ類の混群、イカル約
50羽と続き、盛り上がる。都幾川に出てから、当
地では初観察のオオバンまで出現して、切れ間な
く各種が出現してくれたように思う。(後藤康夫)

2月7日(土) 狭山市 智光山公園

参加: 45名 天気: 快晴

ゴイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ
ヒドリガモ アメリカヒドリ チョウゲンボウ
キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツ
グミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) ス
タートして間もなく綺麗なルリビタキの成鳥♂を全
員でしっかり観察出来て大満足。コース最後の池
では珍しいアメリカヒドリを間近に見ることも出
来た。出現種数はそこそこだったが、天候にも恵
まれ楽しい冬の日だった。 (石光 章)

2月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37名 天気: 晴

カワウ カルガモ オオタカ キジバト アオゲ
ラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ
ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマ
ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラ
ダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (32種) 土手に上がる
と顔を上げられないほどの風。足早に通り過ぎゴ
ルフ場の東側に出る。ここは風も静かで鳥も見や
すい。シメ、ツグミ、モズ等が観察できた。森の
中に入るとルリビタキが薄暗い地面で採餌に夢中
になっていた。おなかのオレンジ色がとてもきれ
い。足元ではアオジが盛んに行き交っている。し
ばらく行くとクヌギの木にアオゲラのみ♀が食事
中。1箇所にとまっていてくれたので皆で楽しむ
ことができた。最後に鳥合わせの最中ミヤマホオ
ジロが出て大いに盛り上がった。 (中里裕一)



●「渡良瀬遊水地をラムサール条約登録地にする会」設立総会

6月27日栃木県小山市民会館で開催され、藤掛保司支部長が出席しました。現在の会員数、団体会員7団体、個人会員9名とのこと。埼玉県支部は団体会員となることを、支部役員会で検討します。

●映画「里山」を財団本部が推薦

数々の賞を受けたNHKのドキュメンタリー「里山」シリーズが映画化され、8月22日(土)から新宿ピカデリー(03-5367-1144)と東劇(03-3541-2711)で公開されます。詳しくは各館にお問い合わせください。

●普及活動

「6月13日(土)さいたま市立博物館と三室公民館の親子探鳥会が見沼たんぼ周辺で開催され、楠見邦博、新部泰治、青木正俊、小菅靖が“鳥をあるがままに楽しみたい”のテーマで、25人の参加者を指導。斜面林の倒木の年輪をかぞえたり、木陰の涼しさ、雑木林の腐食土の道の柔らかさなども経験、有意義な探鳥会になりました。」(楠見の報告文から)

●NHK朝の連続ドラマ『つばさ』の

エンディング5秒間スポットで埼玉県内のいろいろなグループが紹介されていますが、蓮田市黒浜沼を愛する会として、当支部の中島康夫、赤坂忠一、玉井正晴、田中幸男、4名の写真が、8月3日(月)に放送される予定とのこと。なお、放映後は、NHKさいたま放送局のホームページで、「つばさ」番組情報から、「絆」写真館と進めば、グループの詳細が紹介されます。

●事務局のコピー機買い替え

今までのコピー機が相当古く、万一故障し

ても交換部品がない状態になり、やむなく買い替えました。リースも検討しましたが、5年間の合計を計算すると、買い取りの方が有利と判断、今年度予算の什器備品費には、その金額が含まれています。

支部設立直後にご寄付いただいたテレビも古いアナログのまま。2011年までにどうするか、引き続き考えています。

●会員数は

7月1日現在2,146人です。

活動と予定

6月13日(土) 7月号校正 (海老原美夫・志村佐治・手塚正義・藤掛保司・山田義郎)。

6月14日(日) 役員会(司会：榎本秀和、各部の報告・入会振替用紙の納品・コピー機購入・支部総会準備・その他)。

6月20日(土) 総会資料作成など準備作業(事務局)。

6月22日(月) 「支部報だけの会員」に向けて7月号を発送 (倉林宗太郎)。

●事務局の予定

8月1日(土) 編集部・普及部会。

8月8日(土) 9月号校正(午後4時から)。

8月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

8月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

5月末から7月4日現在、毎朝4時にはカッコウの声で目が覚める。今年はずいぶん滞在が長い。雨の日も鳴く。それこそたたましく鳴くときもある。♀の声も混じっている。以前、編集後記にカッコウの声で目が覚めて清々しいと書いたことがあるが、今朝は寝床で「カッコウも これだけ鳴けば かまびすしい」とぼれ句を詠んだ。(山部)

今年はずいぶんカッコウの声を聞かなかった。絶滅したかと思っていた。(石井)

しらこぼと 2009年8月号(第304号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社